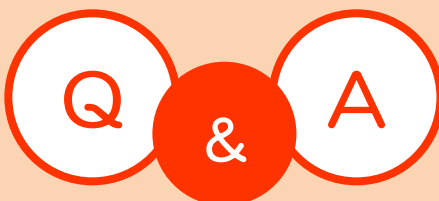




中央しんきんの令和7年9月末仮決算状況について



形式で

中央しんきんのキャラクター「チューちゃん」がお答えします！



Q

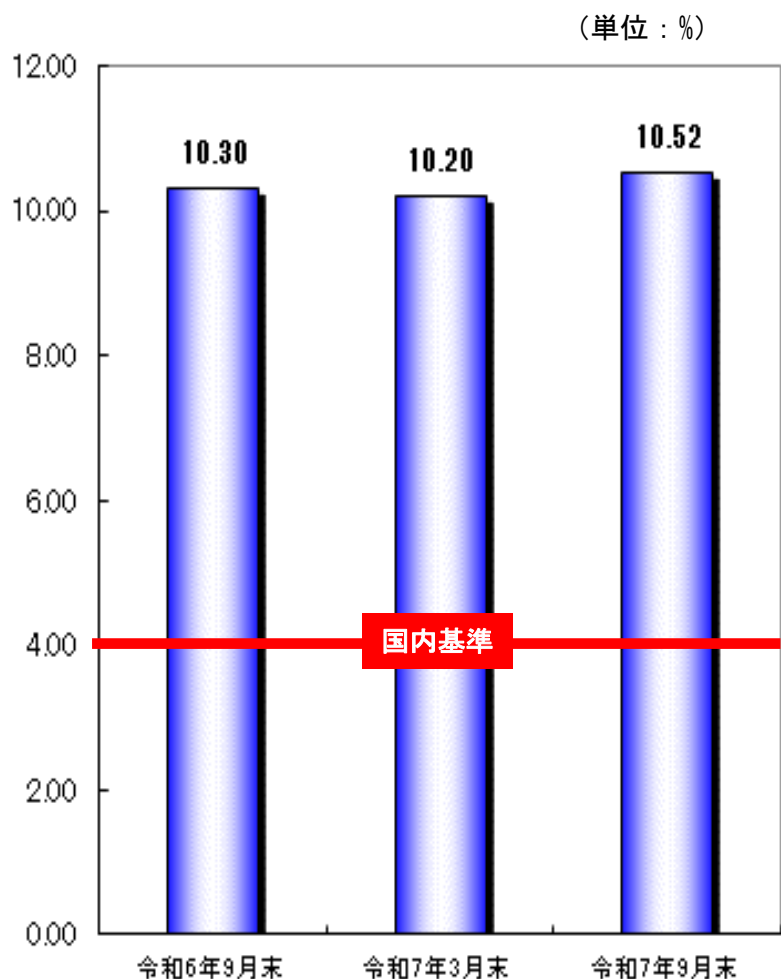
1. 金融機関の安全性や健全性の指標である自己資本比率の状況はどうか？

A

中央しんきんの自己資本比率は10.52%と国内基準の4%を上回っています。



●自己資本比率の推移



	令和7年3月末	令和7年9月末
コア資本に係る基礎項目 (A)	9,034	9,298
コア資本に係る調整項目 (B)	193	188
自己資本額 (A) - (B) (C)	8,841	9,109
リスク・アセット等計 (D)	86,618	86,587
(単位：%)		
単体自己資本比率 (C) / (D)	10.20	10.52

●自己資本比率の算出方法

出資金や内部留保などの自己資本の額を「分子」として、貸出金などの各種の資産をリスク・ウェイトによって調整した信用リスク・アセットとオペレーショナルリスク相当額を8%で割って得た額の合計を「分母」として算出されます。

$$\text{自己資本比率 (10.52\%)} = \frac{\text{自己資本の額 9,109百万円}}{\text{信用リスク・アセット (81,498百万円)} + \text{オペレーショナル・リスク相当額} \div 8\% (5,088百万円)} \times 100$$

用語解説

●自己資本比率

自己資本比率は、金融機関の安全性や健全性を図る指標の1つで、貸出金や有価証券などの総資産（リスク・アセット）に対する自己資本の割合のことです。国内のみで営業している金融機関に求められる基準は4%とされています。

国内基準	日本国内のみで営業している金融機関	4%
------	-------------------	----

●オペレーショナルリスク

オペレーショナルリスクとは、事務事故、システム障害、不正行為等で損失が生じるリスクのことです。なお、算定にあたって当金庫は、標準的計測手法を採用しています。その計算方法は次のとおりです。

$$\text{オペレーショナル・リスク相当額} = \frac{\text{事業規模要素 (BIC)}}{\text{標準的計測手法}} \times \frac{\text{内部損失乗数 (ILM)}}{\text{事業規模指数 (BI) \times 12\%}} \quad \text{BIが1,000億以下の場合 ILM=1}$$

※ 事業規模指数 (BI) = ILDC (金利要素) + SC (役務要素) + FC (金融商品取引要素)

Q

2. 不良債権の状況はどうなっていますか？

A

中央しんきんでは、貸出金等の資産について厳格な基準による査定を行い、これを基に不良債権の償却・引当を実施して、より一層の資産の健全化を進めております。また、不良債権については、貸倒引当金及び担保・保証等で十分にカバーされています。



### ●信用金庫法開示債権及び金融再生法開示債権の保全・引当状況

(単位：百万円)

	令和7年3月末	令和7年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 (A)	301	165
危険債権 (B)	809	714
要管理債権 (C)	296	287
合計 (A)+(B)+(C)=(D)	1,407	1,167
貸倒引当金 (E)	223	170
担保・保証等 (F)	855	679
保全額合計 (E)+(F)=(G)	1,079	850
※「金融再生法上の不良債権」における「貸倒引当金」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。		
正常債権 (H)	106,664	107,650
総与信残高 (D)+(H)=(I)	108,072	108,818
保全率 (D)/(G)	76.65%	72.81%
不良債権比率 (D)/(I)	1.30%	1.07%

(注)

- 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
- 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
- 「要管理債権」とは、「3カ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。

Q

3. 有価証券の運用はどうですか？

A

安全性・収益性・流動性を重視しながら特定の種別や銘柄に偏らない分散投資に努めております。



### ●有価証券の時価情報

■その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

区分	令和7年3月末				令和7年9月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損	時価	評価差額	うち益	うち損
株式	109	21	21	-	115	26	26	-
債券	25,028	▲ 1,886	0	1,886	26,518	▲ 2,093	-	2,093
その他	13,391	▲ 2,215	159	2,374	13,564	▲ 2,081	308	2,389
合計	38,529	▲ 4,080	180	4,261	40,198	▲ 4,148	334	4,482

(注)

- 令和7年9月末の「評価差額」は、令和7年9月末時点の帳簿価格（償却原価適用前）と時価との差額を計上しております。
- なお、満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式に係る含み損益は以下のとおりです。

■満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式で時価のあるもの

(単位：百万円)

	令和7年3月末				令和7年9月末			
	帳簿価格	含み損益	うち益	うち損	帳簿価格	含み損益	うち益	うち損
満期保有目的の債券	2,070	▲ 429	-	429	1,830	▲ 469	-	469
子会社・関連会社株式	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,070	▲ 429	-	429	1,830	▲ 469	-	469

Q

4. 収益状況はどうなっていますか？

A

令和7年9月末での収益の状況は下表のとおりです。安定した収益を確保しています。



(単位:百万円)

	令和6年9月末	令和7年9月末
経常収益	1,632	1,847
業務純益	340	331
コア業務純益 (除く投資信託解約損益)	297	331
経常利益	265	382
当期純利益	105	291

(注) 信用金庫は年1回の決算となっており、左記計数については令和7年9月末時点で試算した場合の概数を掲載しております。よって、年度末決算に準じて作成しておりますが、一部簡便な方法で集計を行っておりますので、年度末の決算とは連続していません。

Q

5. 預金・貸出金の状況はどうなっていますか？

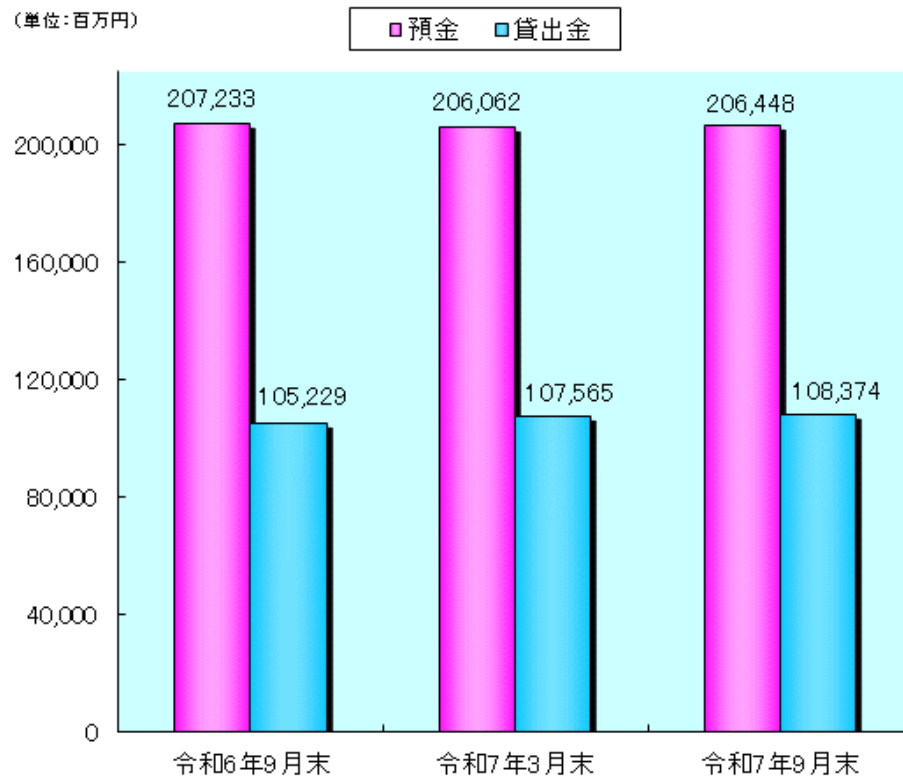
A

預金・貸出金の残高は、堅調に推移しております。



●預金・貸出金残高の推移

(単位:百万円)



●貸出金の業種別内訳

(単位:百万円,%)

業種区分	令和7年3月末		令和7年9月末	
	残高	構成比	残高	構成比
製造業	3,276	3.04	3,452	3.18
農業、林業	983	0.91	1,084	1.00
漁業	100	0.09	104	0.09
鉱業、採石業、砂利採取業	295	0.27	334	0.30
建設業	9,534	8.86	9,172	8.46
電気・ガス・熱供給・水道業	444	0.41	447	0.41
情報通信業	305	0.28	262	0.24
運輸業、郵便業	1,020	0.94	1,079	0.99
卸売業、小売業	7,176	6.67	7,007	6.46
金融業、保険業	2,794	2.59	2,758	2.54
不動産業	27,817	25.86	28,375	26.18
物品貸借業	760	0.70	831	0.76
学術研究、専門・技術サービス業	605	0.56	602	0.55
宿泊業	336	0.31	315	0.29
飲食業	1,849	1.71	1,885	1.73
生活関連サービス業、娯楽業	1,032	0.95	999	0.92
教育、学習支援業	310	0.28	306	0.28
医療、福祉	2,923	2.71	2,943	2.71
その他のサービス	4,565	4.24	4,698	4.33
小計	66,134	61.48	66,659	61.50
地方公共団体	4,897	4.55	4,994	4.60
個人	36,533	33.96	36,720	33.88
合計	107,565	100.00	108,374	100.00

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

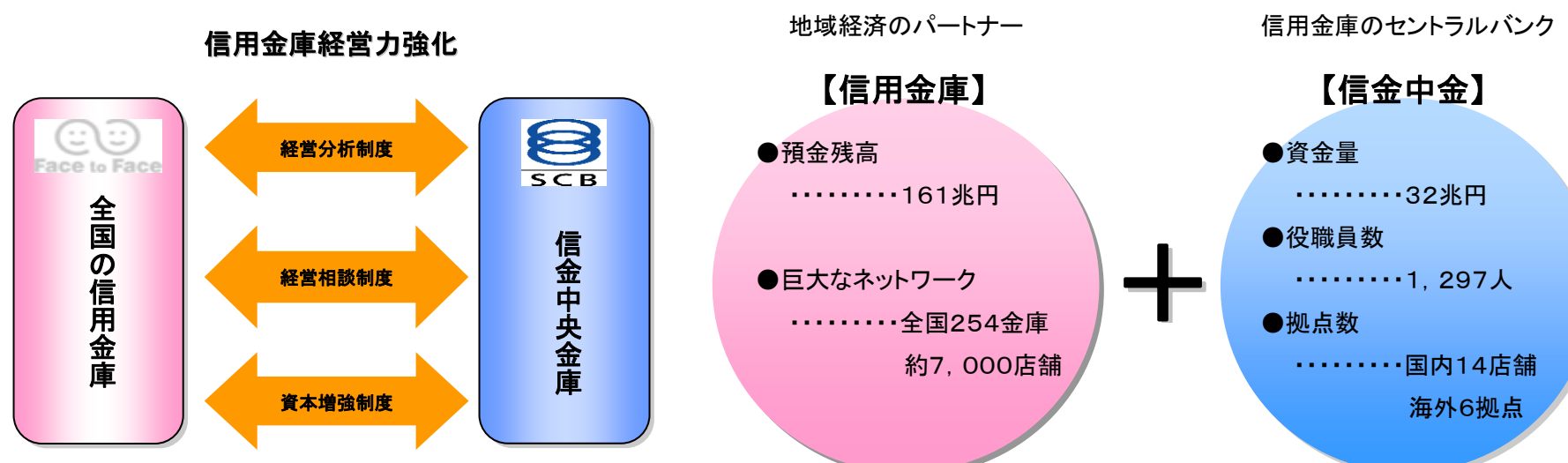
Q

6. 信用金庫業界のセントラルバンクである「信金中央金庫」について教えてください。

A

信用金庫の中央機関として「信金中央金庫」があります。信用金庫業界では、平成13年4月から「信用金庫経営力強化制度」を創設し、「信金中央金庫」が会員信用金庫の経営分析、経営相談、資本増強などで信用金庫を強力にサポートしております。このように全国に広がる信用金庫と「信金中央金庫」は、固い絆で結ばれ、お互いを強化し合い日本の金融業界の中において確固たる地位を占めております。

※下記計数は令和7年3月末現在です。



Q

7. 最近の中央しんきんの主な出来ごとについて教えてください。

A

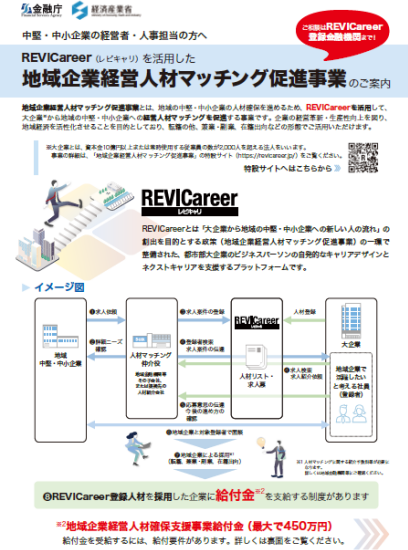
中央しんきんの令和7年4月～令和7年9月までの主な出来ごとをご紹介します。



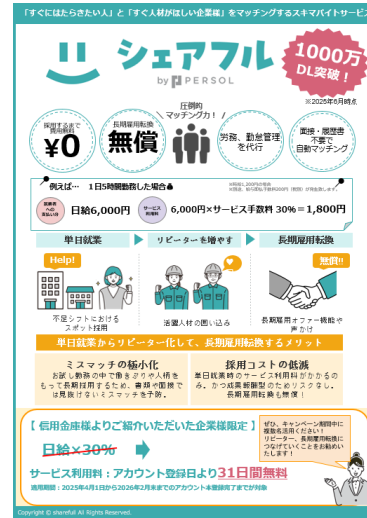
- 4月 「ひとよしくま熱中小学校」第8期開校支援
- 5月 事業者向け「2025年度最新版 補助金&助成金活用セミナー」開催
- 6月 パーソルホールディングス(株)との業務連携に基づく「シェアフル」(単発・短時間・短期間就業)の人材支援サービスの提供開始
- 7月 事業者向け「中小企業省力化投資補助金(一般型)・小規模事業者持続化補助金徹底解説活用セミナー」開催
- 8月 第48回火の国まつり「おてもやん総踊り」ほか各地の夏祭り等に参加
- (株)ヒューレックス社との業務提携に基づく「REVICareer(レビキャリ)」導入
- M&A支援機関(熊本県事業承継・引継ぎ支援センター登録民間支援機関)登録制度への登録



「ひとよしくま熱中小学校」第8期開校支援



「REVICareer(レビキャリ)」の導入



「シェアフル」の人材支援サービス提供開始



「おてもやん総踊り」に参加

## 地域活性化・お取引先支援の取組みについて



中央しんきんでは、事業者の皆様のお困りのことについて、各種経営支援メニューで課題解決のお手伝いをしております。なお、ご紹介している取組みは一部のものです。その他事業経営のことでお困りのことやお悩みのことがありましたら、ぜひ当金庫までお気軽にご相談ください。

### 販路拡大支援

- ・信金中央金庫(全国の信用金庫とのネットワーク)
- ・よい仕事おこしネットワーク(全国の信用金庫お取引先とお取引先をつなぐ取組み)
- ・くまもと県南フードバレー推進協議会
- ・中小企業庁熊本県よろず支援拠点

### 補助金申請支援

- 新事業進出補助金
- ものづくり補助金【連携先】
  - ・(株)エフアンドエム
  - ・エキスパート・リンク(株)
  - ・(株)ライトアップ
- IT導入補助金【連携先】
  - ・(株)リコージャパン

### 求人採用等支援

- 【求人採用に関する連携】
  - ・ミイダス
  - ・doda キャンパス
  - ・熊本県プロフェッショナル人材戦略拠点
  - ・ジンジブ
  - ・ヒューレックス
- 【人材活用に関する連携】
  - ・スキルシフト
  - ・エスハイ
  - ・Hi Pro Direct
  - ・シェアフル

### 事業承継支援

- 【連携先】
  - ・熊本県事業承継・引継ぎ支援センター
  - ・(株)M&Aの窓口
  - ・信金キャピタル(株)
  - ・(株)日本M&Aセンター
  - ・(株)バトンス
  - ・(株)みずほ銀行(医業承継支援)
  - ・総合メディカル(株)(医業承継支援)

この半期レポートは、仮決算に基づき当金庫が自主的に開示する数値であり、監査法人の監査を受けたものではありません。

## 熊本中央信用金庫

〒862-0973 熊本市中央区大江本町1番6号  
☎096(366)1111(代)  
ホームページアドレス <https://www.kumachu.jp/>